

伊豫國「あじの郷」まちづくり

古代伊豫國の発祥の地、独立した商業地として繁栄した郡中。伊予市には長い歴史の中でも、特に誇るべき二つの繁栄の時代が存在しています。そして今、伊予市の第三時代の扉が開かれようとしています。誇りある歴史と豊富で新鮮な魚介類や農産物などの地域資源とを融合させ、「四国における」食の郷」としてまちづくりが進められています。

②郡中港「魚河岸・楽市楽座」エリア

活性化の中心であり、観光拠点となるエリアです。旧郡中港の活気ある港の風景を復活し、新しい魅力を創造します。また、特産品販売や休憩のできる施設「町家」は伊予市観光の玄関口として位置付けられています。



④豊田漁港

港での水揚げやせりは迫力と活気にあふれています。「水揚げを見て楽しむ」「新鮮な魚を食べる」「せりを楽しみ、新鮮な魚介類を買って帰る」ことができる体験型の観光拠点として位置付けられています。



③ふたみシーサイド公園・潮風ふれあい公園エリア

海水浴場、道の駅、レストラン、テニスコート、遊歩道などを備えた魅力的なレジャー拠点です。また潮風ふれあい公園の景観を生かした、新たな魅力づくりも検討されています。



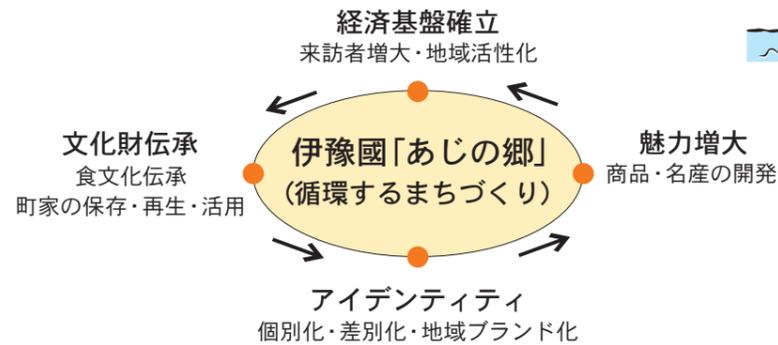
①ウェルピア伊予

伊予市の都市総合文化施設として、伊予文化の醸成・発信拠点となっています。伊予・中山・双海3地域の融合と、文化創造の発信拠点として、また地域活性化の中核施設として機能しています。



⑤中山エリア

豊かな山の恵みを生かした、特産品開発エリアです。中山地区で生産されている「中山栗」の魅力を高めていくため、ブランド化が検討されているほか、新しい地域資源の開発も進められています。



郡中地区の削り節、双海地区の新鮮な魚介類、中山地区の農産物など豊富な食材は伊予市の誇りです。「食」をテーマに、市内の拠点施設を生かし、市全体の活性化へつなげる取り組みが行われています。

今日の豊かな食文化は、歴史、文化、自然環境、そして人によってはぐくまれてきました。食文化を見つめ直すことは、地域の魅力を再発見することにつながります。また、人、もの、文化の結節点であった歴史をヒントに、より多くの人が伊予市を訪れ、交流することによって地域の活性化を目指しています。

経済の活性化、文化伝承、アイデンティティの形成……。さまざまな可能性を秘めた伊豫國「あじの郷」づくり構想が始まっています。

市では、地域の活性化に取り組んでいる方々や、地元企業との関係者をメンバーとして、昨年6月「伊豫國「あじの郷」づくり実行委員会」を設立しました。以来、本委員会では、専門家や有識者のアドバイスをいただきながら、魅力ある伊予市の新時代を創造するため、具体的な施策や新たな戦略などについて話し合いを行っています。

今年はその一環として新たな地域資源の発掘などを目的とした「食」に関する調査を予定していますので、皆さんのご理解とご協力をお願いします。